

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 理学療法学専攻

名 前 藤野 努

作成日 2026年4月27日

1. 責務 (何を行っているか、何を果たしているか)

担当科目：理学療法臨床推論 (3年必修)、理学療法画像評価学 (2年必修)、理学療法学研究法 (3年必修)、理学療法学総合演習Ⅶ (4年必修)、運動学 (2年必修)、卒業研究Ⅰ (3年選択)、卒業研究Ⅱ (3年選択)

委員会：学生委員会 (副委員長)

本学の教育理念に基づき、私は科目を通じて学生に専門的な知識と技術を提供するだけでなく、コミュニケーションや職業倫理にも重点を置いて教育しています。また、学生委員会の副委員長として、学生の学習環境の整備と学生の自主性とリーダーシップを育む活動をサポートしています。これらの責務を通じて、本学の教育に貢献しています。

2. 理念 (教育に対する考え方)

1. 教育に対する理念：

私の教育に対する理念は、"総合的な理解と実践的スキルの融合"です。教員として特に大切にしているのは、学生一人ひとりが多角的な視点から問題を理解し、それを実践に活かせる力を身につけることです。学生には、専門的な知識を深めるだけでなく、その知識を社会貢献につなげる意欲と能力を持ってほしいと願っています。

2. ディプロマ・ポリシーとの対応：

人間総合科学大学のリハビリテーション学科理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーは、人間の総合的理解、心身相関の理解を基盤としています。このポリシーに沿い、以下のような教育活動を展開しています。

- **多面的・総合的な理解**: 理学療法臨床推論や理学療法画像評価学の科目で、心理・身体・環境・社会的側面からの理解を深めます。
- **科学的根拠に基づく専門知識と技能**: 理学療法学研究法や卒業研究を通じて、科学的な根拠に基づいた専門知識と技能を教授します。
- **高い倫理観と協働の力**: 学生委員会活動を通じて、他の専門職との連携・協働する力を育むよう努力しています。
- **生涯学習の素養と意志**: すべての科目と活動を通じて、自ら学び続ける意欲と能力の育成に取り組んでいます。

3. 責務と大学・学部の教育理念・方針：

人間総合科学大学の教育理念とディプロマ・ポリシーに基づき、私は学生が社会に出て即戦力となるよう、また持続可能なキャリアを築けるように全力でサポートしています。具体的には、専門的な知識と技術の提供、人間性の育成、そして社会貢献に必要なスキルと意識の啓発に努めています。これらの責務を通じて、大学・学部の教育理念と方針に貢献していると自負しています。

3. 方法（教育方法において大切にしていること）

私が教育活動で特に重視しているのは「学生中心の教育」です。具体的には、以下のような方法を採用しています。

- **対話型授業**: 理学療法臨床推論や理学療法画像評価学では、単に情報を伝えるだけでなく、学生との対話を重視しています。これにより、学生が多面的・総合的な理解を深める機会を提供しています。
- **実践的なケーススタディ**: 理学療法学研究法や運動学の授業では、実際のケースを取り上げ、科学的根拠に基づいた専門知識と技能の適用方法を学びます。
- **チームベースの学習**: 卒業研究では、学生同士での協働を促し、高い倫理観と協働の力を育むようにしています。
- **自主性の促進**: 学生委員会活動を通じて、学生自身が問題を発見し、解決策を考える力を育むようサポートしています。
- **フィードバックとリフレクション**: すべての科目と活動において、定期的なフィードバックと自己評価を行い、生涯学習の素養と意志を高めるよう努力しています。

これらの方法は、人間総合科学大学のディプロマ・ポリシーとも一致しており、学生が社会で即戦力となるスキルと人間性を育むために有効だと考えています。私の教育に対する理念とも密接に関連しており、学生が多角的な視点から問題を理解し、それを実践に活かせる力を身につけるための具体的な手段となっています。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

授業アンケートや個別のフィードバックによると、学生は特に対話型授業と実践的なケーススタディを高く評価しています。これにより、学生が多面的・総合的な理解と科学的根拠に基づいた専門知識と技能を習得していることが確認されています。また、卒業研究や学生委員会活動を通じて、学生自身が問題解決能力と協働の力を高めている様子が見受けられます。これらの成果は、私の教育方法と人間総合科学大学のディプロマ・ポリシーが学生の成長に寄与している証拠と考えています。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

本専攻の国家試験合格率は概ね全国平均を上回っており、国家試験対策は比較的良好な結果をもたらしていると考えています。しかし、100%は開学以来達成していないため、100%の国家試験合格率を目指していきたい。また留年者、中退者が比較的多いため、学生支援を充実させ多くの学生が4年で国家試験合格をできる環境を整備していきたいと考えています。以上のことを踏まえ、以下の目標を設定しました。

短期目標（1年以内）：国家試験合格率 100%

中期目標（3年以内）：中退者、留年者 20%減少

【添付資料】

シラバス, 授業アンケート

【評価】

第1次評価 / 評価者名						
<評価>	5	4	3	2	1	
<コメント>						

第2次評価 / 評価者名						
<評価>	5	4	3	2	1	
<コメント>						

【評価】

第1次評価 / 評価者名						
<評価>	5	3	2	1		
<コメント>						

第2次評価 / 評価者名						
<評価>	5	3	2	1		
<コメント>						